

2026年熊本地震 緊急子ども支援

1ヶ月レポート

2026年7月28日に発生した熊本地震。最大震度7を観測したこの地震による被災状況を受けて、セーブ・ザ・チルドレンは熊本県内で被災した子どもたちやその家族、子ども関連施設に向けた緊急支援活動を行いました。



©Save the Children

発災直後～2026年8月の主な活動

7月28日
地震発生

「子どものためのPFA(心理的応急処置)」情報発信
同日中に緊急支援チーム立ち上げ

- **7月30日 緊急支援チーム現地入り、ニーズ調査開始**
熊本県庁や八代市役所、被災した放課後児童クラブなど子ども関連施設を訪問、被災した子どもたちや子育て世帯の状況についての聞き取りを開始
- **7月31日～ 「緊急子ども用キット」配布**
おもちゃや衛生用品が詰まった「緊急子ども用キット」の配布を開始、八代市内の避難所では子どもたちに直接手渡した分も含め110セットを配布
- **8月1日・2日 八代市内で「こどもひろば」開設**
子どもたちが安心して自分らしく過ごし、遊びや交流を通じて日常を取り戻すための「こどもひろば」を開設、2回にわたり実施
- **8月3日～ 支援ニーズの聞き取りや物資支援を継続**
八代市をはじめ、被害の大きかった宇城市や宇土市、氷川町など、複数地域の子ども関連施設を訪問し、支援ニーズの聞き取りを継続
保育園へ水や衛生用品を、放課後児童クラブへ昼食や「緊急子ども用キット」を提供するなど、行政などと連携しながらニーズに応じた物資調達・支援を継続
- **8月5日・6日 氷川町内で「こどもひろば」実施**
施設の損壊や断水による影響などで、子どもたちの居場所がなくなるなか、地域の方が開いた居場所から「子どもたちと一緒に過ごしてくれる人がいない」との声を受け、氷川町内で「こどもひろば」を2回実施
- **8月12日～27日 八代市「こどもの居場所」サポート**
保護者が仕事や被災に伴う片付け・手続きなどを行う間、子どもが安心・安全に過ごせる場所として八代市が開設した「こどもの居場所」。8月27日までの開設期間中、この居場所の実施や運営を支援

● 以降も、熊本地震緊急・復興支援を継続



緊急支援チーム出動準備



子ども関連施設訪問、ニーズ調査



「緊急子ども用キット」の配布



支援物資の調達・配布



八代市・氷川町で実施した「こどもひろば」



八代市「こどもの居場所」※認定NPO法人カタリバとともに実施支援

数字でみる
支援の概要

※2026年8月27日時点

- ・ 緊急子ども用キット **480** セット配布
- ・ 放課後児童クラブへ昼食 **180** 食分を提供
- ・ 「こどもひろば」参加者のべ **73** 人
- ・ 八代市「こどもの居場所」参加者のべ **239** 人 など



避難所で過ごす間も子どもの心身の安全・
安心のために

緊急子ども用キット

衛生面も、遊びも—子どもの心身の健康を保つため

「緊急子ども用キット」は、地震や豪雨などの災害発生時、被災直後の不自由な避難生活において、子どもたちが心身の健康を保ち、安心・安全に過ごせる環境を守るために配布するキットです。

防犯用ホイッスル、水なしで使えるシャンプーなどの衛生用品や、限られたスペースで遊べる道具、子どもや保護者向けの情報提供チラシなどがナップサックに詰められています。災害が起こったとき、迅速に子どもたちに配布できるように、平時から、セーブ・ザ・チルドレンの東京と大阪の事務所のほか、九州地方の連携団体にもこの「緊急子ども用キット」を保管しています。

今回の熊本地震では、発災直後に立ち上げた緊急支援チームが、各事務所に保管していたキットに加え、連携団体に保管していたキットを、八代市をはじめとした避難所や子ども関連施設へ配布。「緊急子ども用キット」の中身を目にした子どもたちは喜びの声や表情を見せ、遊び道具を使って思い思いの時間を過ごしていました。

自宅の損壊の影響などから避難所で過ごす子どもや家族にとって、衛生面だけでなく、こころの安心にもつながるキットの存在は、保護者へのサポートとしても役立っています。

また、「緊急子ども用キット」の配布と並行し、子ども関連施設への聞き取りを行うなかで、断水のため衣類を洗濯できない状況を確認。そこで急きょ子ども用衣類を調達し、避難所で必要とする子どもたちに提供しました。

子どもたちに寄り添い、子どもたちの声を聴く—そうすることで、子ども特有のニーズに気づき、必要な支援を届けることができます。

セーブ・ザ・チルドレンでは引き続き、子どもたちの安心と日常を取り戻せるよう、現地での支援を続けていきます。

保護者からの声

(家が全壊し)遊び道具がなくなり、
子どもがいつも泣いている家もある。
キットに遊び道具があって助かりました。

断水が続いているため、歯磨き
シートやドライシャンプーなどの
衛生用品が本当に役に立ちました。



©Save the Children

「緊急子ども用キット」の中身



八代市内の避難所にて「緊急子ども用キット」を子どもたちに直接手渡し



「緊急子ども用キット」を手にする子ども



「緊急子ども用キット」のほか、衣類やぬいぐるみ、水や昼食といった物資の配布も





子どもが安心して過ごし、日常や自分らしさを取り戻すことを支える場

こどもひろば

避難所でも子どもが安心して過ごせるように

「こどもひろば」は、災害などの緊急時、避難先でも子どもたちが安心・安全に遊んだり、友だちと過ごすことで、日常や自分らしさを取り戻すことを支える場です。

避難生活では、寝食の場所やスケジュールなどに加え、遊ぶことにおいても選択肢が限られてしまいがちです。こうしたストレスの多い環境において、子どもたちが「何をして遊ぶか」を自分の意思で自由に決め、思い切り遊び、友だちと過ごす時間は、子どもが自身の力で災害の影響を乗り越えていく回復力を育むサポートにつながります。

子どもは思い切り遊び、 保護者は安心して仕事や片付けに集中できる

この「こどもひろば」は、保護者や大人にとっても大きな支えとなります。子どもが安心・安全な居場所で過ごせることで、少しの間でも自分の時間を持つことができます。それにより、被災した住まいの片づけや生活再建に向けた手続きに集中できるほか、心身を休める時間をとることができます。

ともに遊び、教え合う—子ども同士のつながりも

道路や建物の損壊などの影響で、外で思い切り遊ぶことができない子どもたちにとって、風船を使ったボール遊びなど、体を使う遊びは大人気。折り紙や粘土を使った遊びではさまざまな作品を生み出し、「こんなのできたよ!」とスタッフに見せながら説明する子どもも。それぞれが思い思いの遊びに集中したり、次から次へと選びながら遊ぶなかで、新しい遊びを思いついたり、遊び方を教え合ったりと、子ども同士のつながりが生まれる様子も見受けられました。

この「こどもひろば」は、8月1日・2日に八代市内で、5日と6日には氷川町内で、計4回実施、のべ73人の子どもが参加しました。

参加した子どもからの声

(スタッフが持ってきたミサンガの糸を見つけて)
こんなのもあるの?!
使っているの?(と喜びの声)

昨日(参加して)
楽しかったから、
また遊びに来た!

(2日間続けての参加で)
昨日遊んだ(風船をつかまえる)
遊びを今日しよう!

保護者からの声

子どもの笑顔が見れて
うれしかった。

子どもがやっと遊べた。
本当に助かった。



八代市、氷川町で実施した「こどもひろば」の様子



洗濯バサミや粘土で思い思いの形をつかったり、体を動かす遊びで子どもたちは笑顔に



遊び方を教えたり、一緒に新しい遊びを生み出したり—子ども同士のつながりも



子どものこころのケアと保護者の負担軽減のために

八代市「こどもの居場所」 実施サポート

行政や関係団体との連携により 子どもが安心・安全に過ごせる場所を運営

セーブ・ザ・チルドレンは、認定NPO法人カタリバとともに、八代市が8月12日に開設した「こどもの居場所」の準備と運営支援を行いました(8月12日～27日)。

市内の小学校の体育館に開設されたこの居場所は、夏休み期間中に子どもたちが安心して過ごせるためと、保護者の負担軽減を目的として八代市が開設したもので、連日4歳から小学校6年生まで、のべ239人の子どもたちが参加。セーブ・ザ・チルドレンは、開設準備のサポートやスタッフの派遣調整から、開催期間中の居場所運営など、子どもたちが安心・安全に遊び、自分らしさを取り戻すためのサポートを行いました。



参加した子どもからの声

(お迎えに来た保護者に向かって)
明日も絶対来る!

(遊び終わって)
たくさん動いたけん、疲れた!

(遊んでから)家に帰ってきて
『今日は100点満点の日だったよ』って
言っていました。本当に嬉しそうだった。
楽しかったみたいです。

保護者からの声

誰もができる緊急下の子どものこころのケア

子どものためのPFA

地震や事故などの危機的な出来事に直面した子どもたちは、普段とは異なる反応や行動を示すことがあります。不安になったり、泣きやすくなったり、睡眠や食事に変化が起こるなどは、異常な事態における正常な反応です。

「子どものためのPFA」は、そうした子どもたちのこころを傷つけず、自分たちのペースで落ち着きを取り戻せるようサポートする“こころの応急手当”です。子どもに合わせたコミュニケーション方法や必要な支援につなぐための対応を、特別な心理的知識がなくても誰もが実践できるものです。

※「子どものためのPFA」は、世界保健機関 (WHO)などが、支援者が共通して身につけておくべき心構えと対応をまとめたPFA(Psychological First Aid)を、子どもとその保護者・養育者に対して実施するうえで、子どもの発達段階の特性や、年齢に合った必要など、子どもに特化してセーブ・ザ・チルドレンが作成したものです。



災害などの緊急時、
あなたはどのように
子どもに声をかけますか?

子どものためのPFAを
もっと詳しくみる



この1ヶ月、多くの皆さまからあたたかいご支援・ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

セーブ・ザ・チルドレンは、これからも常に子どもたちや保護者、地域の声に耳を傾けながら、支援を継続します。

2026年熊本地震
緊急子ども支援の
情報はこちら

